

レカネマブ（レケンビ®点滴静注） 案内時の注意点

アルツハイマー病による「認知症が軽度である時期」あるいは、「**軽度認知障害**」の方の**進行を遅らせる薬**で、全ての認知症の方へ投与できるものではありません。
また、国内で初めて承認された薬であり、投与のための条件が国のガイドラインで決められています。

- 事前の検査で脳に認知症の原因のひとつである「アミロイドβ」がたまっていることを明らかにする必要があります。

* アミロイドPET/脳脊髄液検査



- 受診には、ご家族など普段の様子をご存知の身近な方の付き添いが必要です。

- レカネマブは、2週間に1回、1時間ほどの点滴を1年半継続する薬です。



- 使い始めの初期に、注射したときに頭痛、寒気、発熱、吐き気などが現れることがあります。

- 脳が腫れたり、脳に少量の出血が生じたりする場合があるので、専門医療機関でのMRI検査を定期的に繰り返し行う必要があります。



- レカネマブの使用には、専門的な知識を持つ医師による診断、認知機能の検査、脳にアミロイドが蓄積していることの確認（検査）、当該医療機関で副作用を管理できる体制等が必要です。



- なお、これまで脳梗塞や脳出血にかかったことがある方は投与できない場合があるので、専門医へご相談ください。

発行 神奈川県基幹型認知症疾患医療センター 東海大学医学部附属病院
神奈川県高齢福祉課